



# 大館市 脱炭素型ライフスタイル 市民ワークショップ

2022年8月～10月

## はじめに

秋田県の大館市は、20世紀には鉱業で栄えた地域ですが、現在は鉱業跡地をいかしたりサイクル産業などが盛んです。また、比内地鶏や曲げわっぱなどの名産品でも知られています。しかし、20世紀の末から高齢化と人口流出が進み、公共交通も少しずつ削減されています。

大館市では地球温暖化対策実行計画（区域施策編）を作ることになり、大館市民の考えをできるだけ取り入れ、脱炭素化するだけでなく今までより住みよい地域にしようと考えました。

そこで、大館市に暮らす中高生から高齢者までの幅広い年代の人々と一緒に、脱炭素で住みよい大館市にするために必要な取り組みを考えるワークショップを開催しました。

高齢化と人口流出が続く大館市では、気候変動対策と同時に、公共交通の縮小や市街地のコンパクト化、雇用機会の創出などの多くの課題に取り組んでいます。今とこれからの地域の課題を考えながら、市民生活に無理な負担をかけない脱炭素化を考えなくてはなりません。

## 1.5°Cライフスタイルの活用

市民ワークショップでは、1.5°Cライフスタイルの脱炭素行動を参加者が家庭で試し、感想を持ち寄り話し合う「脱炭素ライフスタイルチャレンジ」を取り入れました。

参加者の皆さんは、2週間にわたり、2種類ほどの脱炭素行動に家庭で挑戦しました。「自動車を使わずにバスや自転車で移動する」「地域で作られた食べ物を食べる」などです。

脱炭素行動を取り入れたことで、参加者の皆さんは、今すぐできる脱炭素行動があることを体感しました。たとえば「自転車で移動する」という行動に挑戦した高校生は、「いつも親に送り迎えを頼まなくてもよいし、朝、走るの気持ちがいい」という感想を共有してくれました。けれども「夜になると暗くなる道路があり怖かった」という感想もあり、「夜も安心して走れる道があるともっとよいのでは」といった話し合いにつながりました。

脱炭素行動を地域で試してみる経験から、脱炭素で暮らしや

すい地域にするためにどんな仕組みやサービスがあるとよいかといった話し合いができるようになりました。

大館の市民ワークショップに参加した皆さんの意見は、次のような4種類の機会にまとめられました。

電気自動車やゼロエネルギー住宅のような脱炭素の暮らしに役立つ製品・サービスを試してみる「体験の場」  
ライドシェアリングのようなサービスの使い方や肉を使わない料理、エコドライブなどを学ぶ「学びの場」  
壊れたものを修理したり、使う機会の少ないものを共有したり、空き家などの資源を活用するための「マッチング」  
将来の地域と暮らしを学び話し合ったり、地域の生産者との交流を深めたりするための「対話の場」

ワークショップに参加した市民の提案は、大館市地球温暖化対策実行計画を議論する検討協議会に伝えられ、実行計画策定の参考とされることになりました。



## 1.5°C Lifestyles

脱炭素型のライフスタイル

<https://www.iges.or.jp/jp/projects/1p5deg-lifestyles>

公益財団法人地球環境戦略研究機関（IGES）

〒240-0115 神奈川県三浦郡葉山町上山口2108-11  
Tel: 046-855-3700 E-mail: [iges@iges.or.jp](mailto:iges@iges.or.jp)